大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム　中期計画に係る評価

2025年度

評価点と評価の目安

5段階評価	評価の目安
5	当初の計画について極めて順調に事業が進行し、目標を上回る成果が挙がっている。
4	当初の計画について順調に事業が進行し、目標に対して十分な成果が挙がっている。
3	当初の計画について概ね事業は進行しているが、一部の事業の進行に遅れがみられ、目標達成には一層の努力が求められる。
2	当初の計画のうち半数以上の目標に係る事業の進行が遅れており、一部の目標や事業について見直しが必要である。
1	当初の計画について事業の進行が極めて遅れており、ほとんどの目標について達成の見込みがないため、計画の大幅な見直しが必要である。

総合評価

総合評価	⑤　4　3　2　1 ＜推進委員会で評価＞
総合評価の理由	取り組み目標ごとの評価点では5点が7つ、4点が4つであり、アウトカム目標2つも達成された。このことから総合評価は「5、当初の計画について極めて順調に事業が進行し、目標を上回る成果が挙がっている。」とした。
備考	

目標ごとの評価

取組目標①	経営マインドを持ち地域活性化に貢献する人材の育成	
活動指標	経営関連科目を含める形で毎年80科目以上の科目を開放する単位互換制度を堅持し、市川市の現代社会的課題を扱う共同開発プログラム「市川学Ⅱ」を通じて、地域活性化に貢献する人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。それとともに、市川市に貢献している地元企業と個別に連携協定を結び、協働して地域活性化に資する事業を実施する。	
	具体的取り組み内容	2025年度実績
1	他の②～④の取組目標に関連する単位互換科目とあわせて、2028年度まで5大学で総計80科目以上を単位互換科目として相互に開放する体制を堅持することを目標とする。	2025年度は5大学全体で104科目を単位互換科目として開放した。充分達成できている。
2	共同開発プログラム「市川学Ⅱ」において、市川市役所及び市内の企業・NPO法人をはじめとする各種団体の取り組みを見学すると共に、社会課題の解決に向けて地域活性化に貢献する人材、「地域つながり力」を持った人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。	「市川学Ⅱ」は9月4日(木)8日(月)9日(火)に、千葉商科大学・和洋女子大学・東京科学大学・東京経営短期大学・昭和学院短期大学の専任教員、包括協定企業等による講義の授業を持つと同時に、また市内施設見学(フィールドワーク)を行った。講義10コマ、フィールドワーク5コマである。履修者は30名であった。地域つながり力育成の役目は充分果たせている。
3	大学コンソーシアム市川が個別に連携協定を結んだ市川市内の有力・優良企業等と交渉し、上記取組2の「市川学Ⅱ」以外に各企業等の見学や交流事業をそれぞれ2件以上実施する。これにより、各企業と共に地域活性化に貢献する。	2025年度については、「市川学Ⅱ」以外に、京成電鉄株式会社は2件(グループ会社施設見学ツアー、宗吾車両基地キッズフェスタ)、東京ベイ信用金庫は1件(金融に関する対面講座)、株式会社市進ホールディングスは3件(出張講義の実施、大黒屋の利用)、千葉県税理士会市川支部は1件(税務教育をテーマとした対面講座)の事業を実施した。
評価	5　④　3　2　1　＜推進委員会で評価＞	

取組目標②	ゆとりのある子育て環境の実現と人材の育成	
活動指標	子育て環境を知る学習を複数大学間で展開させていくと共に、2028年度までにのべ250人以上の学生に市川市を中心とする地域での就職機会を提供し、地元就職率の向上を図る。	
	具体的取り組み内容	2025年度実績
1	共同開発プログラム「市川学Ⅱ」において、市川市からの委託で運営している子育て支援センターである昭和学院短期大学の「もこもこ・こどもセンター」を利用すると共に、「市川学Ⅱ」を通じて子育て環境の充実という社会課題の解決に向けて貢献する意識を持った人材を2028年度までにのべ100人以上育成する。	子育て支援センターの利用開放を行った他、共同開発科目「市川学Ⅱ」において、9月9日(火)に子育て支援センターの取り組みに関する講義及び見学(フィールドワーク)を行った。受講者数は30名であった。
2	市川市と共同主催として実施している「幼保就職ナビinいちかわ」を通じて毎年50名を超える学生が市川周辺の保育現場の実態を学ぶと共に、就職へ向けた機会としていく。	大学コンソーシアム市川キャリア支援部会と市川市共催により、市内の私立幼稚園及び私立保育施設を対象とした合同就職説明会「幼保就職ナビin いちかわ」を令和7年7月6日(日)10:30-13:00に和洋女子大学で開催した。参加団体　市川市内の幼稚園、法人保育園(30団体)。参加者は市川市の幼・保・児童関連施設に興味がある大学生1～4年生計56名。開催にあたっては市川商工会議所の協力を仰いだ。
3	こども教育に関連する社会人のためのリカレント教育・学び直しのための講座を企画し、2025年度までを目標として、実際に立ち上げていく。	大学の教員による保育者を対象とした専門的成長のためのプログラム「幼稚園教諭・保育士のための「学びなおし講座(全3回)」を和洋女子大学が幹事となり実施した。幼児教育・保育の現場で課題となっているテーマについて、その分野を専門とする東京経営短期大学、昭和学院短期大学、和洋女子大学の教員が、保育者の専門性の向上やキャリア形成をめざして、保育者のための、学びなおしの機会を、全3回にわたってオンラインで提供した。第1回8月27日第2回 9月17日第3回10月20日。参加者61名。開催の広報は市川市の協力を仰いだ。
評価	⑤　4　3　2　1　<推進委員会で評価>	

取組目標③	少子高齢化社会に対応できる地域医療・福祉	
活動指標	医療・看護・福祉関連科目を含める形で2028年度まで毎年80科目以上を開放する単位互換制度を堅持し、市川市の現代社会的課題を扱う共同開発プログラム「市川学Ⅱ」を通じて、市川で進行する少子高齢化社会に対応できる人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。	
	具体的取り組み内容	2025年度実績
1	医療・看護・福祉関連科目を含む形で他の①～④の取組目標に関連する単位互換科目とあわせて、2028年度まで総計80科目以上を単位互換科目とする体制を堅持することを目標とする。	2025年度は5大学全体で104科目を単位互換科目として開放した。充分達成できている。
2	共同開発プログラム「市川学Ⅱ」において、市内の企業・NPO法人等の運営する介護施設等を見学すると共に、少子高齢化が進行する市川市の現状を踏まえた地域医療・看護・福祉に貢献する人材、「地域つながり力」を持った人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。	「市川学Ⅱ」は9月4日(木)8日(月)9日(火)に、千葉商科大学・和洋女子大学・東京科学大学・東京経営短期大学・昭和学院短期大学の専任教員、包括協定企業等による講義の授業を持つと同時に、また市内施設見学(フィールドワーク)を行った。講義10コマ、フィールドワーク5コマである。履修者は30名であった。地域つながり力育成の役目は充分果たせている。
評価	⑤　4　3　2　1　<推進委員会で評価>	

取組目標④	現代社会のニーズにあった都市型ビジネスの展開	
活動指標	スポーツビジネスやブライダルビジネス、コミュニティビジネスなど都市型ビジネス関連科目を含める形で毎年80科目以上の単位互換制度や、市川市の現代社会的課題を扱う共同開発プログラム「市川学Ⅱ」を通じて、都市型ビジネスに対応できる人材2028年度までにのべ150人以上を育成するとともに、金融や租税に関する教育機会を確保していく。	
	具体的取り組み内容	2025年度実績
1	都市型ビジネス関連科目を含む形で他の①～④の取組目標に関連する単位互換科目とあわせて、2028年度まで総計80科目以上を単位互換科目とする体制を堅持することを目標とする。	2025年度は5大学全体で104科目を単位互換科目として開放した。充分達成できている。
2	共同開発プログラム「市川学Ⅱ」において、市内の企業・施設等を見学すると共に市川市の現状を踏まえたコミュニティビジネスや、都市型ビジネスに貢献する人材、「地域つながり力」を持った人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。	「市川学Ⅱ」は9月4日(木)8日(月)9日(火)に、千葉商科大学・和洋女子大学・東京科学大学・東京経営短期大学・昭和学院短期大学の専任教員、包括協定企業等による講義の授業を持つと同時に、また市内施設見学(フィールドワーク)を行った。講義10コマ、フィールドワーク5コマである。履修者は30名であった。地域つながり力育成の役目は充分果たせている。
3	大学コンソーシアム市川と連携協定を結んだ東京ベイ信用金庫及び千葉県税理士会市川支部と協働しつつ、金融教育・税務教育について学生が学ぶ公開講座を2028年まで毎年それぞれ1回以上提供する。	11/5(水)に千葉県税理士会市川支部と協働で「知らないと損する!? 現役税理士が教える税金の基礎知識」を開催した。 また、11/26(水)に東京ベイ信用金庫(金融経済教育推進機構協力)と協働で「知っておきたいお金のはなし」を開催した。
評価	⑤　4　3　2　1　<推進委員会で評価>	

取組目標⑤	地域社会の国際化に対応できる人材の育成	
活動指標	千葉商科大学 CUC International Squareや和洋女子大学グローバル・ラウンジの利用により異文化交流体験や英語でのコミュニケーション力を高める体験型の学習機会を2028年度までの5年間でのべ5,000人以上の利用者に提供し、地域社会の国際化に対応できる人材を育成する。	
具体的取り組み内容		2025年度実績
1	千葉商科大学CUC International Squareと和洋女子大学グローバル・ラウンジ及び文化資料館などの施設を通じ、異文化交流体験や英語でのコミュニケーションを気軽に体験できる機会を提供する。同施設の利用者条件を、大学コンソーシアム市川参加5大学に解放することで、のべ5,000人以上の利用者に体験型学習機会を提供し地域社会の国際化に対応できる人材の育成を図っていく。	5大学あわせて9,321名が利用した。 CUC International Square：3,851名（千葉商科大学以外内訳：5月…4名、6月…6名、7月…4名、10月…6名、11月…3名、12月…2名、1月1名） グローバル・ラウンジ：3,776名（和洋女子大学以外内訳：6月…1名、7月…4名、10月…10名、11月…7名、12月…9名） 文化資料館：1,694名（和洋女子大学以外内訳：7月…18名）
評価	5　④　3　2　1　＜推進委員会で評価＞	

取組目標⑥	持続可能な社会への転換（SX）に向けた貢献	
活動指標	持続可能な社会への転換に向けて、2028年度までにのべ150人以上の環境意識の高い学生を地域社会に送り出していく。	
具体的取り組み内容		2025年度実績
1	環境関連科目を中心に他の①～④の取組目標に関連する単位互換科目とあわせて、2028年度まで5大学で総計80科目以上を単位互換科目として相互に開放する体制を堅持することを目標とする。	2025年度は5大学全体で104科目を単位互換科目として開放した。充分達成できている。
2	共同開発プログラム「市川学Ⅰ」において、市川市の自然環境について学び、環境課題の解決と持続可能な社会への転換（SX）に向けて貢献する「地域つながり力」を持った人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。	「市川学Ⅰ」は8月22日（金）25日（月）26日（火）に、千葉商科大学・和洋女子大学・東京科学大学の専任教員による講義を行う同時に、市内博物館等の見学（フィールドワーク）を行った。講義10コマ、フィールドワーク5コマである。履修者は24名であった。地域つながり力育成の役目は充分果たせている。
評価	⑤　4　3　2　1　＜推進委員会で評価＞	

取組目標⑦	人生100年時代に向けた生涯学習への対応	
活動指標	大学コンソーシアム市川参加5大学の健康、教育、環境、商業など多岐にわたる専門分野を活かし、「いちかわ市民アカデミー講座」をさらに発展させることによって、年間12回以上の市民向け講座を開催して市川市民の生涯学習に対応していく。	
具体的取り組み内容		2025年度実績
1	「いちかわ市民アカデミー講座」をさらに発展させることによって、年間12回以上の市民向け講座を開催して市川市民の生涯学習に対応していく。千葉商科大学・和洋女子大学・昭和学院短期大学・東京経営短期大学が会場（運営を含む）となる4コースを維持し、各コースの講座のテーマに応じて、東京科学大学にも講師派遣を依頼する。	4大学による各コース、3講座を実施し、計12講座を実施した。
評価	5　④　3　2　1　＜推進委員会で評価＞	

取組目標⑧	地域文化の理解と、市川地域の発展に向けた研究協働	
活動指標	市川の地域的特徴を活かし、同地域の発展に資する共同研究プロジェクトを毎年立ち上げる（共同研究を毎年1件以上）。また、地域文化に詳しい学生を2028年度までにのべ150人以上育成し、地域の発展に貢献していく。	
具体的取り組み内容		2025年度実績
1	共同開発プログラム「市川学Ⅰ」において、市川市の自然・文化・歴史についての理解を深めると共に、地域文化の活性化に貢献する人材、「地域つながり力」を持った人材を2028年度までにのべ150人以上育成する。	「市川学Ⅰ」は8月22日（金）25日（月）26日（火）に、千葉商科大学・和洋女子大学・東京科学大学の専任教員による講義を行う同時に、市内博物館等の見学（フィールドワーク）を行った。講義10コマ、フィールドワーク5コマである。履修者は24名であった。地域つながり力育成の役目は充分果たせている。
2	市川の地域的特徴を活かし、同地域の発展に資する共同研究プロジェクト（新規の共同研究を毎年1件以上）を立ち上げ、このプロジェクトを通じて地域について理解を深めると共に、同地域の発展に貢献する。	採択された研究「地域で暮らすこどもと親への支援の場をつくるための調査研究」（沢口 恵　和洋女子大学看護学部看護学科）は、大学コンソーシアム市川の目的と高い整合性を有し、地域に根ざした子育て支援の場づくりに資する取り組みとして意義が認められる。研究目的・方法は、地域ニーズに基づく調査研究としての重要性が評価できる。地域との協働体制を着実に構築しつつ、研究成果を明確に示すことで、地域社会への波及効果が一層高まると期待される。
評価	⑤　4　3　2　1　＜推進委員会で評価＞	

取組目標⑨	都市型災害に強い地域づくりと災害時の相互連携	
活動指標	市川市内の教育機関や医療機関が連携して防災や街づくりに取りくむ。また、災害に強い地域づくりの一環として、取組目標⑥とも連動させつつ、大学コンソーシアム市川に所属する各大学の備品の実態を把握し、共同購入について検討していく。	
具体的取り組み内容		2025年度実績
1	大学コンソーシアム市川に所属する各大学の防災備蓄品や環境に配慮した備品の使用実態を把握し、共同購入について検討する（検討のための部会を年1回以上実施）。	2025年度も全5校で昨年度に引き続き防災用品を購入。購入窓口は千葉商科大学で対応。購入先からは値引き対応もありスケールメリットの効果もあった。
評価	⑤ 4 3 2 1 ＜推進委員会で評価＞	

取組目標⑩	男女共同参画社会に向けたキャリアパス構築支援	
活動指標	プラットフォーム参画大学の学生にキャリアパス構築の支援事業を進め、毎年80名以上の参加学生を募集する。	
具体的取り組み内容		2025年度実績
1	市川市役所と市川商工会議所、関係各機関と連携しつつ、プラットフォーム参画大学の学生を対象にしたキャリア講演会・討論会を年1回以上開催する。	①市川市への人材定着を促進し、地元志向の学生ニーズに応えるため、本社または事業所を市川市に構える企業を対象とした合同説明会形式の合同セミナーを開催した。セミナーは 2025 年 11 月 27 日 13:30～15:15 に千葉商科大学にて実施し、参加学生は 33 名、参加企業は市内の優良企業 10 社であった。開催にあたっては、市川市および市川商工会議所の協力を得た。 参加学生および参加企業から高い評価を得ており、大変意義のある取り組みとなった. ②キャリアセミナーを開催。第一部はLGBTQ＋セミナー「多様な性を知る」ををテーマに行った。LGBTQ＋という言葉は知っていても、なかなか深く理解する機会がない学生や社会人に向けて、基礎知識から社会における課題、そして私たち一人ひとりができることをわかりやすく解説。学生生活や企業活動の事例を交えながら、多様な性を尊重し、だれもが生きやすい社会の実現にむけて考えるきっかけとして本セミナーを開催した。 テーマ:「多様な性を知る」～LGBTQ＋の基礎知識と社会課題、そして私たちにできること第2部として、市川市の就労支援をテーマに行った。 日時:2025年10月14日(火)14:40～16:10会場:和洋女子大学 参加者数:101名。
評価	⑤ 4 3 2 1 ＜推進委員会で評価＞	

取組目標⑪	地域つながり力の素質をもった優秀な学生の確保	
活動指標	地域と教育機関が連携し、より良い教育のあり方を検討するとともに、プラットフォーム形成大学・短期大学が連携した学生募集活動を実施する。さらに、地域の初等教育に対する教育活動支援を毎年開催し、2028年度までにのべ2,000人以上の児童に教育活動支援の機会を提供する。	
具体的取り組み内容		2025年度実績
1	プラットフォーム形成大学・短期大学共同のニーズ調査を実施する。具体的には各大学の3月期～6月期に開催されるオープンキャンパス来場保護者に対してアンケート調査を実施する。	【保護者向け認知度調査】 オープンキャンパス開催時に、同行する保護者を対象に、市川市内にある大学の認知度調査を実施した。 回収枚数　総数383件(実施日) 千葉商科大学　65件(7/27、8/31) 昭和学院短期大学　97件(7/5、12、26、8/2、23) 環太平洋大学:東京経営短期大学　73件(7/26、30、31、8/1、24) 和洋女子大学　148件(7/20、8/24) 大学認知度　総数383件 千葉商科大69.2%、昭和学院短大43.6%、環太平洋大17.2%、和洋女子大70.2% ※昨年度 千葉商科大65.4%、昭和学院短大39.0%、環太平洋大35.8%、和洋女子大59.7%
2	プラットフォーム形成大学・短期大学共同の高校訪問を実施する。市川市内にある高等学校4校以上を目標に共同の高校訪問を実施する。各大学のプロモーションだけにとどまらず、大学コンソーシアム市川設立の目的や活動内容等についても説明を行う。	【合同高校訪問】 1.開催日時:2025年7月25日(金)13:30～14:10 2.訪問先:昭和学院高校　進路指導部長　松田ひとみ　先生 3.参加大学: ①和洋女子大学　企画部　石毛里佳　先生 ②千葉商科大学　学事部長　鈴木孝　先生 ③環太平洋大学(東京経営短期大学) 　事務次長・アドミッションセンター課長　魚井算人先生 ④昭和学院短期大学　助教　荒谷純子　先生 4.内容: ＜第一部＞ ・各大学による大学紹介(大学の特徴やコース紹介等) ＜第二部＞ ・昭和学院高校　進路指導部長　松田先生より進路志望の動向について 5.その他:5大学間での情報共有の実施
3	大学コンソーシアム市川のパンフレットを作成し、それを用いて学生募集活動を通年で実施する。高校訪問時やオープンキャンパスで配布し、認知度向上をはかる。	【留学生対象オンライン大学説明会】 実施日　9月19日(金)10:00～12:00 日本語学校生徒　参加者31名 (和洋女子大6名、環太平洋大7名、千葉商科大9名、昭和学院短大9名)

4	「キッズビジネスタウン®いちかわ(地域の小学生児童や幼児に向けたビジネス教育の一環として、2003年からスタートした市川市教育委員会の後援のイベント)」を毎年開催し、これにプラットフォーム形成大学・短大の教職員・学生がスタッフとして参加し、2028年度までにのべ2,000人以上の児童に対して教育活動支援を行う。	2026年2月14日(土)・2月15日(日)に「第23回キッズビジネスタウン®いちかわ」を実施し、両日で644名の児童が参加した(同伴者の数は除く)。 なお、イベントの運営に、大学コンソーシアム市川参画校の学生162名(千葉商科大学150名、和洋女子大学10名、昭和学院短期大学2名)、教職員7名(千葉商科大学4名、和洋女子大学2名、昭和学院大学1名)が携わった。また、2月14日(土)には、市川警察署から5名が参加し、学生とともに警察ブースを担当した。
5	市川市内の小中学校及び連携協定を結んだ株式会社市進ホールディングス傘下の学習塾の通塾生などを対象に、大学の学びを紹介する出張講義・オンライン講座等を開催し、大学での学びの一端を体験してもらうことで、初等・中等教育の段階にある児童・生徒のキャリアパス構築に資すると共に、将来、地域に資する人材の育成・確保を図る。この事業を通じて、2028年までに300人以上の児童・生徒に大学の学びを体験してもらう。	株式会社市進ホールディングスの民間学童保育施設「アフタースクールナナカラ」からの依頼を受け、8月26日に講座を実施した。参加者は11名であった。
評価	5　④　3　2　1　<推進委員会で評価>	

アウトカム目標に係る数値

◇プラットフォーム参加大学等の卒業時の平均学生満足度3.5以上(5段階評価)【4.4】
※4段階評価でアンケートを行っている大学については、5段階評価に換算している。

◇プラットフォーム参加大学等の平均の県内就職率20%以上【38%】